

[第20回全国大会公開シンポジウム]

個別主義の壁、普遍主義の壁 ——2020年代を切り開くことば——

- 第20回全国大会開催報告 ● 高橋梓……………003
 [基調講演] (前座)：道化一人芝居
 めぐり逢う時のなかの「個別／普遍」
 ——「薔薇の名前」、現象としての「壁／ことば」 ● 木原誠……………006
 [パネル・ディスカッション]
 [国]を意識するとき——文学・思想・歴史から考える個別主義の「壁」……………022
 ● [パネリスト] 朝立康太郎／岡野薫／高橋梓 (コーディネーター兼)
 [報告：飛鳥・榎原ヴァーチャルエクスカーション]
 ● 高橋梓……………056

フォーラム「グローバル化に対応する 「文化」概念の再構築」

- キーワード設定による学際的対話……………060
 ● [フォーラム報告者] 増淵佑亮／阿部純／大和裕美子／吉岡剛彦
 ● [モデレーター・報告兼統括者] 菅野敦志／松居竜五

文化的他者の表象とその意味

- 北タイ・カヤンとの「異文化交流番組」を事例として ● 齋藤大輔……………096
 文化接触による建造物の意味的変容過程について
 ——大正期の校園寺内文庫の事例から考える ● 斎藤理……………113
 戦時期日本における中国白話文学の受容
 ——松枝茂夫訳「思痛記」とその背後 ● 朱琳……………132

社会的分断の時代における「政治コミュニケーション」

- 国際協力活動に焦点を当てて
 ● 湯浅拓也／大山貴稔／政所大輔／渡邊康宏／伊藤丈人／齋川貴嗣……………149
 オリエンピック研究が国際文化学に果たす役割
 ● 鈴村裕輔……………160

戦後の韓国映画雑誌にみる日本関連記事

- 韓日映画人の交流 ● 関愛善……………165
 戦後日本市民運動史の一断面としての
 「朝鮮通信使の道をたどる旅の会」
 ● 山口祐香……………176

- 鳥飼玖美子 [異文化コミュニケーション学] ● 坪井睦子……………187
 目黒志帆美 [ワラのハワイ王国史——王権と先住民文化の比較検証を
 通じた19世紀ハワイ史像] ● 阿部純……………191

【会員の著書紹介】……………195

- * 鳥飼玖美子 [異文化コミュニケーション学]
 * 太田素子・湯川薫津美編 [幼児教育史研究の新天地 (上巻)——近世・近代の子育てと幼児教育]
 * 藤田賀久編 [神奈川から考える世界史——歩いて、見て、感じる歴史]
 【博士論文紹介】
 [国際秩序転換期における新渡戸稲造の位置——継承されるデモクラシー論と
 近代日本の国際協力] ● 湯浅拓也……………197
 Varieties of Transnational Life: Brazilian Nikkeis' Changing Cross-Border Ties with
 Two Homelands ● 柴田寛之……………199
 [漢学者・岡千仞における自己認識の展開] ● 岡秋君……………201

【国際文化学 私の3冊】

- 歩きつつ出会いつつ考えた国際文化学
 ● 倉真一……………203

- 英文目次……………209
 ABSTRACT……………211
 編集後記……………214
 日本国際文化学会2021年度事業報告……………215
 日本国際文化学会第20回全国大会プログラム……………216
 日本国際文化学会第21回全国大会開催予告……………220
 全国大会発表要項について……………222
 2021～2022年度役員及び各種委員一覧……………225
 日本国際文化学会規約……………228
 「インターカカルチュラル：日本国際文化学会年報」編集要項……………230
 「インターカカルチュラル：日本国際文化学会年報」投稿規程……………232
 平野健一郎賞規程……………234